

「第14回沖縄県のがん対策に関するタウンミーティング」報告書

テーマ：『第2次沖縄県がん対策推進計画がどのように地域に活かせるか』について

参加者数：15名（一般4名、医療関係者8名、政党関係者3名）

司会者：増田 昌人（琉球大学医学部附属病院がんセンター）

出演者：親父祖 ちか氏（沖縄県福祉保健部医務課主幹）

天野 慎介氏（一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン理事長、
沖縄県がん診療連携協議会がん政策部会長）

埴岡 健一氏（日本医療政策機構理事・がん政策情報センター長、
東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット

客員教授）

日時：平成25年8月3日（土）12:00～16:00

場所：浦添市てだこホール マルチメディア室



「第2次沖縄県がん対策推進計画」
がん医療対策 緩和ケアの推進・在宅医療の推進につ
がん患者の就労を含めた社会的な問題について

がん患者支援 不十分

緩和ケアや相談体制で要望

県タウンミーティング

「沖縄県のがん対策に関するタウンミーティング」が3日、浦添市てだこホールで開かれた。がん診断後の身体的・精神的苦痛に対する緩和ケアや相談支援体制などを議論。フロアからは「医師に遠慮して緩和ケアについて聞けなかった」「92歳の父親の手術をするかどうか誰に相談していいかわからなかった」「など、患者の支援体制がまだ十分伝わっていない現状も明らかになった。

県がん診療連携協議会がん政策部会長と琉球大学医学部附属病院がんセンターが主催し、14回目。4月に始まった第2次県がん対策推進計画を地域で生かすことをテーマに患者や家族ら20人余りが参加した。県計画では「緩和ケアの推進」の項目が盛り込まれている。がん患者の立場でアドバースチーム設置の病院数は増加し

「患者のニーズを看護士さんなど医療者側から1日1回聞くことが重要」と述べ、身体的・精神的な痛みを取り除く病院側の取り組みを求めた。

患者と医療者のつながりをさらに深めるべきだとの意見も相次いだほか、各病院に設置されている相談部門が十分活用されていないとの意見もあった。

患者団体の女性らは「一緒に寄り添い悩んだりする人は必要。患者の立場でアドバースできれば助かる」と述べ、

ており2012年で30、緩和ケア関係を持つ医療機関も4施設33病床ある。

しかし、フロアからは「い患者ではないといけない」という意見がある」と、患者の悩みが医療者に届いていない現状が指摘された。協議会の天野慎介・がん政策部会長は「患者のニーズを看護士さんなど医療者側から1日1回聞くことが重要」と述べ、身体的・精神的な痛みを取り除く病院側の取り組みを求めた。

患者と医療者のつながりをさらに深めるべきだとの意見も相次いだほか、各病院に設置されている相談部門が十分活用されていないとの意見もあった。